

居住の水路 遊歩の川

水路	川	学生
シェアハウス	地域	環境整備

1230001	饗場 史子
指導教員	渡辺 菊眞

1. はじめに

高知県香美市土佐山田町は、一級河川である物部川と面し、町のいたる所に水路や支流の小河川が流れている。

一般的に水路や河川は、農業用水や生活水の確保に利用されており、滋賀県針江の家の中まで水路を引き込むカバタや、岐阜県郡上八幡の共同の洗濯所として利用するカワドなどが、その例として挙げられる。

私が通う大学の周辺をめぐる水路や小河川に関しても、農業や生活用水などに利用されているが、それだけではなく、水路や河川があることで形成される魅力的な住まいや風景も見られる。

2. 背景

本設計では、土佐山田町の神母ノ木・山田島・林田・加茂という4つの地域を跨ぐ、ある2つの水流に着目した。

1つ目は父養寺井川である。物部川と平行に流れる水路であり、傾斜や曲りの変化が少なく、比較的穏やかに流れる。水路沿いには、独特な立地から水路と特徴的な関わりを持つ家屋が建ち並ぶ。

2つ目は父養寺井川と直交して流れる室谷川である。山から物部川へと流れる小河川であり、地形により傾斜や曲りの変化が激しい。そのため、上流から下流にかけて、その様態の変化を楽しむことができる。

このように、2つの水流には様々な特徴や魅力が存在する。その一方で、父養寺井川の神母ノ木の区間には、水路とは無縁の状態でも何年もあり続ける学生アパートが2棟ある。それらは、父養寺井川沿いに建ち並ぶ魅力的な建物たちとは馴染まず、違和感を感じる存在となっている。そのため、そこに住む学生もまた地域とは疎遠な存在のように感じてしまう。豊かな魅力がある2つの水流のそばにしながら、それを知らず、地域と無縁な状態にいるのは、勿体無いことだと感じる。

そこで、まず学生アパートを廃止し、この地と関わり合いの深い空間に変えて、そこに住むことはできないか。また、その変化から地域を知り、その良さをより高めるお手伝いをできたら良いのではないかと考えた。

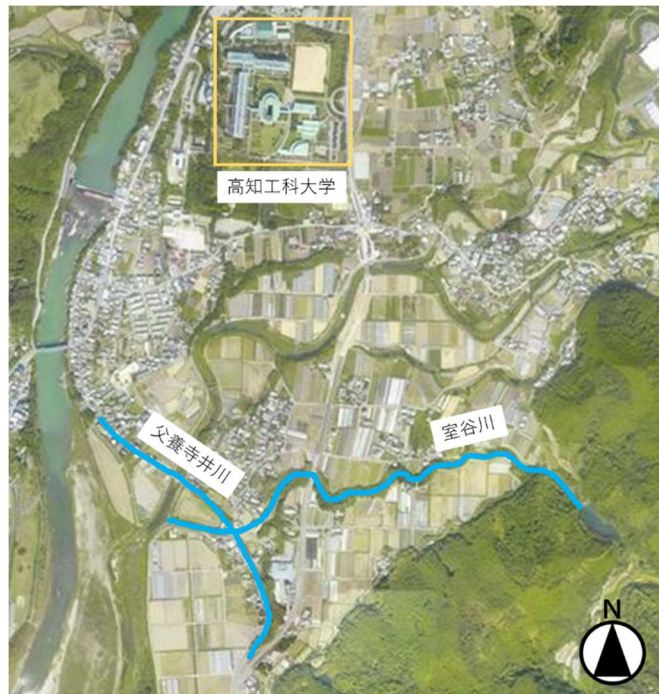


図1. 対象敷地周辺の航空写真

1) 出典：地理院地図に文字、図形、方位を追記

3. 目的

本設計では、父養寺井川と室谷川を対象に、地域とともに住まう場を計画することを目的とする。なお、ここで言う住まう場は、住空間とそれを取り巻く環境のことを言う。

- 1)父養寺井川沿いには、水路に関わる地域空間特性を備えた学生向けのシェアハウスを4棟設計する。
- 2)室谷川では、学生が主体となって地域との関係を持ち続けられるような環境整備を行う。

これにより、2水流のそばで、地域に住み、地域を知り、地域をより良くするサポートができる。

4. 指針

本設計の指針として以下の3点を定める。

- 1)父養寺井川沿い：水路に関わる地域空間特性を備えた快適なシェアハウスとする。
- 2)室谷川沿い：水路と川の魅力を引き出す環境整備を行う。

3)1)2)により、地域を越えたつながりを生む住まう場を形成する。

5. 手順

5.1 父養寺井川での設計手順

父養寺井川では以下の手順で設計を行う。

- ①水路によりその建物の空間特性の把握
- ②文献調査に基づくシェアハウス計画の把握
- ③親水路型シェアハウスのモデルプランの設計
- ④敷地特性に応じたシェアハウスの設計
- ⑤Passive System の導入と計画の統合

5.2 室谷川での計画手順

室谷川では以下の手順で計画を行う。

- ①現地調査に基づく河川の周辺環境の把握
- ②環境整備計画の策定

6. 設計の内容

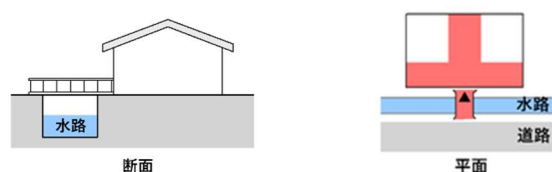
6.1 父養寺井川での設計

①水路によりその建物の空間特性の把握

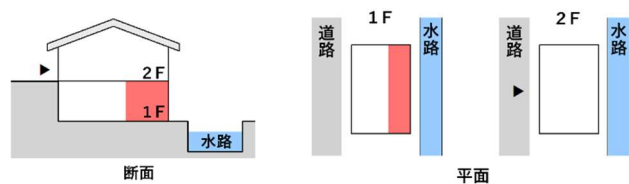
現地調査の結果、水路と建物の内部空間の関係性において、水路に沿って以下の3つのパターンがみられた。水路との関係性は下流に行くにつれて強まる傾向にある。

(1)~(3)の各図では、水路と最も密接に関わる空間を確認し赤色で示す。

(1)橋を渡って屋内へ入るパターン



(2)2階から屋内へ入り、1階で水路と隣接するパターン



(3)水路を跨いで立地するパターン

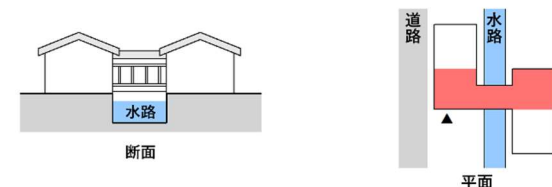


図2. 水路と建物との関係の3パターン

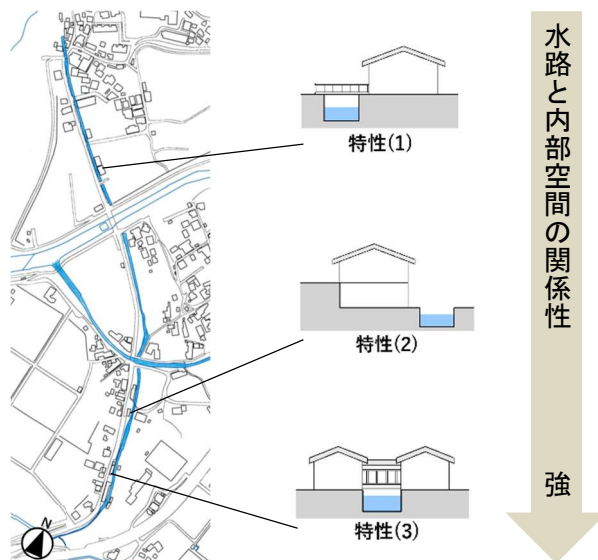


図3. 流れとともに強まる水路との関係

1) 出典：地理院地図に文字、図形、方位を追記

②文献調査に基づくシェアハウス計画の把握

文献調査を行い、シェアハウスの典型的プランを定めた。ここでは、本設計で採用するもののみを示す。

(1)オープンプラン

平屋シェアハウス



(2)オープンプラン

立体シェアハウス

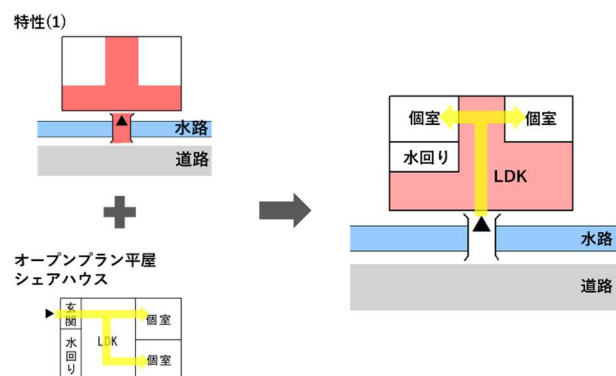


図4. シェアハウスの典型的な構成

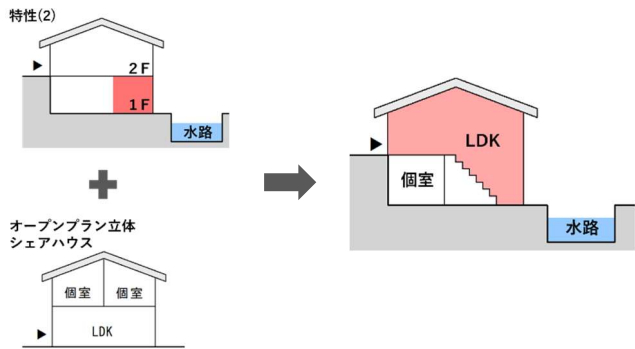
③親水路型シェアハウスのモデルプランの設計

手順②で定めたシェアハウスの典型的プランに、手順①で把握できた空間特性を組み込んで、親水路型シェアハウスのモデルプランを設計する。

I 橋による親水路型シェアハウス



Ⅱ レベル差による親水路型シェアハウス



Ⅲ 跨ぐ立地による親水路型シェアハウス

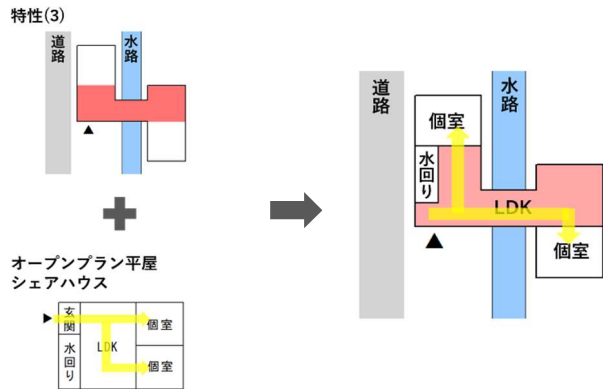


図5. 親水路型シェアハウスのモデルプラン

④敷地特性に応じたシェアハウスの設計

3つの領域の中間の位置と、父養寺井川の上流、下流の計4地点でシェアハウスを設計する。場所に応じて適切なモデルプランを組み合わせ、水路と建物の内部空間の関係を下流に行くにつれて段階的に強めていく。

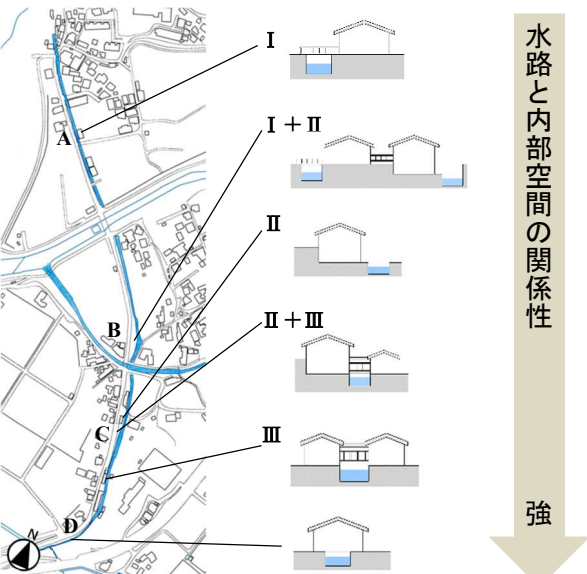


図6. シェアハウスの配置図

1) 出典：地理院地図に文字、図形、方位を追記

・敷地 A

I のプランをそのまま取り入れる。

・敷地 B

モデルプラン I と II を組み合わせる。

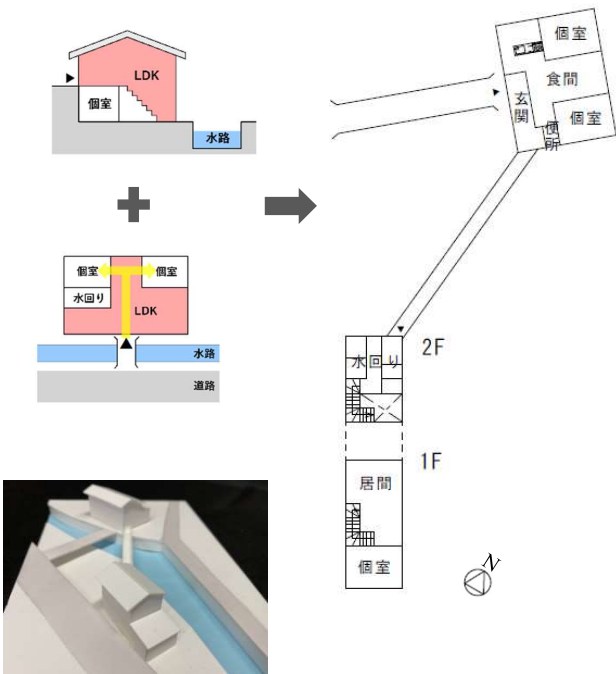


図7. モデルプラン I と II の複合

・敷地 C

モデルプラン II と III を組み合わせる。

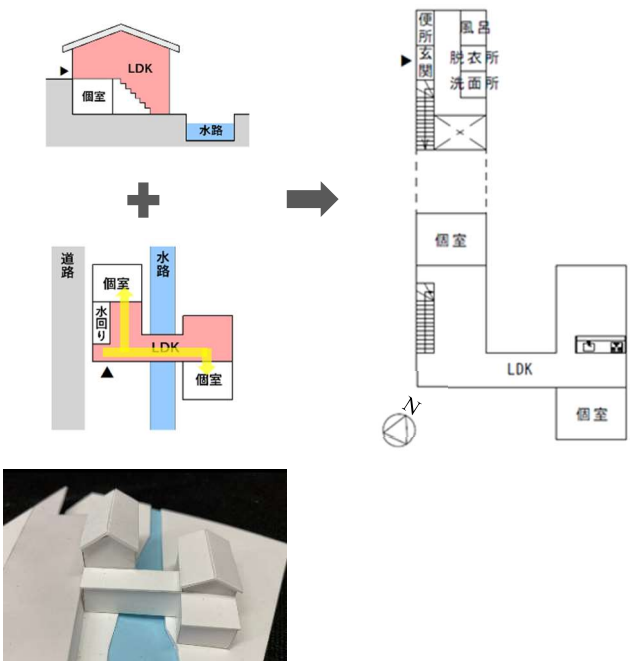


図8. モデルプラン II と III の複合

・敷地 D

水路と内部空間の関係をより強めた特徴をもたせる。水路の上にかぶさるように建物を配置し、共用空間の LDK には、水路と内部空間をつなぐ中庭空間を設ける。

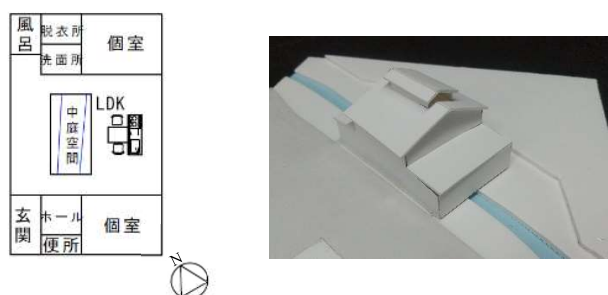


図 9．敷地 D のモデルプラン

⑤Passive System の導入と計画の統合

手順④で設計した各シェアハウスをより快適な建築とするため Passive System を導入する。母屋のハイサイドライトにより、日射取得や通風経路等を確保する。

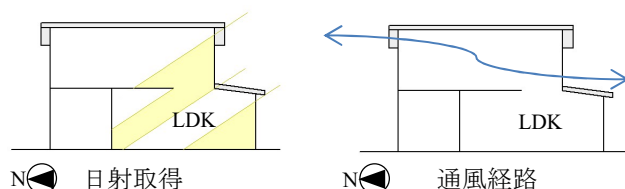


図 10．Passive System の図解

6.2 室谷川での環境整備計画

①現地調査に基づく河川の周辺環境の把握

水源のため池付近では、急斜面を流れてくる様々な様態の水路が流れており、ため池を含め種々の水景を楽しむ。

父養寺井川と室谷川の合流地には、三角形の窪地がある。この三角形の一点で、室谷川の西端にあたる地点では、父養寺井川沿いで計画した敷地 A と敷地 D のシェアハウスを見ることができ、父養寺井川沿いの住まいとのつながりも感じられる。

また、室谷川を境に分けた南北の地域を流れる水路はそれぞれ様態が違っている。北側の水路は主に道路沿いを流れ、中には機能を失い、水が流れない水路が存在する。一方、南側の水路は田畑を巡るように流れており、農業用水として利用されている。そして室谷川には、この南北の地域をつなぐように、小さな橋が数カ所に架かっている。

②環境整備計画の策定

以下の a,b 二つの領域に分けて行う。

- a. 水源地、2 水合流地周辺
- b. 水路沿い



図 11．環境整備計画の全体図

1) 出典：地理院地図に文字、図形、方位を追記

a. 水源地、2 水合流地周辺

・水源地

ため池や水路の傍を歩ける遊歩道を計画し、様々な水流を体感できるようにする。

・2 水合流地周辺

地域で行う環境整備活動の一環として、窪地ののり面に草花を植えることで、2 つの水路が交差する方向を強調する。

b. 水路沿い

機能を失い、水が流れなくなった水路を花壇にする植栽活動を行い、学生や地域住民が交流する。この活動により花であふれた北側の水路と水で潤う南側の水路を、室谷川に架かる橋を渡って自由に行き来することで、地域を越えて自由に歩ける場とする。

7. まとめ

2 つの水路の魅力を最大限活かし、学生と地域住民のための住まう場を計画することができた。

水路により形成される魅力的な住まいと、学生と地域の新たなコミュニティを提案できたのではないだろうか。

参考文献

- 1) 国土地理院：地理院地図/GIS Maps
<https://maps.gsi.go.jp/>, (accessed 2023.02.09)
- 2) 株式会社 BRUNO systems：room share 大坂のルームシェア向き賃貸物件情報
<https://www.bruno.jp/share/life/02.php>, (accessed 2023.02.09)